

## 第2号議案 君津市学校給食における食物アレルギーの対応について

### 1 「君津市学校給食食物アレルギー対応検討委員会」における検討結果

君津市立の小中学校の児童生徒の食物アレルギーに対応するため、令和元年7月に立ち上げたアレルギー専門医や小中学校の養護教諭代表・保護者代表などを構成員とする「君津市学校給食食物アレルギー対応検討委員会」において、該当者の多いアレルギー品目の中から安全性を最優先に検討した結果、次のとおり検討案をとりまとめた。

特定原材料のえび・卵・かに・乳の4品目を含まないアレルギー代替食を提供することとする。

それに伴い、学校現場で直接携わる養護教諭の意見も採り入れ、「君津市学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」の改定を行った。

### 2 これまでの検討の経緯

#### (1) 食物アレルギーを有する児童生徒数（令和元年5月現在）

区分	対応児童数	エピペンの所持者数
小学校	61人	11人
中学校	23人	8人
計	84人	19人

#### (2) 現在の食物アレルギー対応

「君津市学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」を平成29年度に策定し、平成30年度から運用している。

現在の食物アレルギーの対応については、医師から食物アレルギーであると診断された児童生徒に対し、特定原材料7品目及び特定原材料に準ずる20品目の計27品目が記載された「詳細な献立対応」、「日別弁当対応」及び「完全弁当対応」としている。

特定原材料 表示義務（7品目）	小麦・そば・卵・乳・落花生・えび・かに
特定原材料に準ずるもの 推奨表示（20品目）	あわび・いか・いくら・オレンジ・キウイフルーツ・牛肉・くるみ・さけ・さば・大豆・鶏肉・豚肉・まつたけ・もも・やまいも・りんご・ゼラチン・バナナ・ごま・カシューナッツ

#### 特定原材料（表示義務7品目）とは

食物アレルギー症状を引き起こすことが明らかになった食品のうち、特に発症数、重篤度から勘案して表示する必要性の高いものを食品表示基準において特定原材料として定め、上記の7品目の表示を義務付けている。

#### 特定原材料に準ずるもの（推奨表示20品目）とは

食物アレルギー症状を引き起こすことが明らかになった食品のうち、症例数や重篤な症状を呈する者の数が継続して相当数みられるが、特定原材料に比べると少ないものを特定原材料に準ずるものとして、上記の20品目を原材料として含む加工品については、該当食品を原材料として含む旨を可能な限り表示するよう努める。

### (3) 君津市でのレベル対応

食物アレルギー対応には、対応段階（レベル1からレベル4）がある。

レベル1	詳細な献立表による情報提供
レベル2	弁当持参対応（1食弁当・単品弁当・完全弁当）
レベル3	除去食対応 <b>※君津市では実施しない。</b>
レベル4	代替食対応

君津市では、現在レベル1とレベル2の対応を下記のとおり実施している。

**レベル1対応とは、** 27品目が記載された詳細な献立表による情報提供を行い、各家庭で喫食の有無について判断いただく。

**レベル2対応とは、** 通常は給食を提供するが、原因食品が使用されており、弁当の持参を希望する場合は、1食分の弁当を持参  
(※学校長の判断により、献立の代替となる単品の持参もある)

弁当持参対応 48人（1食弁当25人 単品弁当20人 完全弁当3人）

**1食弁当対応とは、** 給食の代替として1食分の弁当を持参

**単品弁当対応とは、** 該当するアレルギーを含むおかずの代替として単品を持参

**完全弁当対応とは、** 多品目の食物除去が必要な場合や油の共用ができないなど、学校給食で対応が困難と考えられる場合は1年を通して家庭から弁当を持参

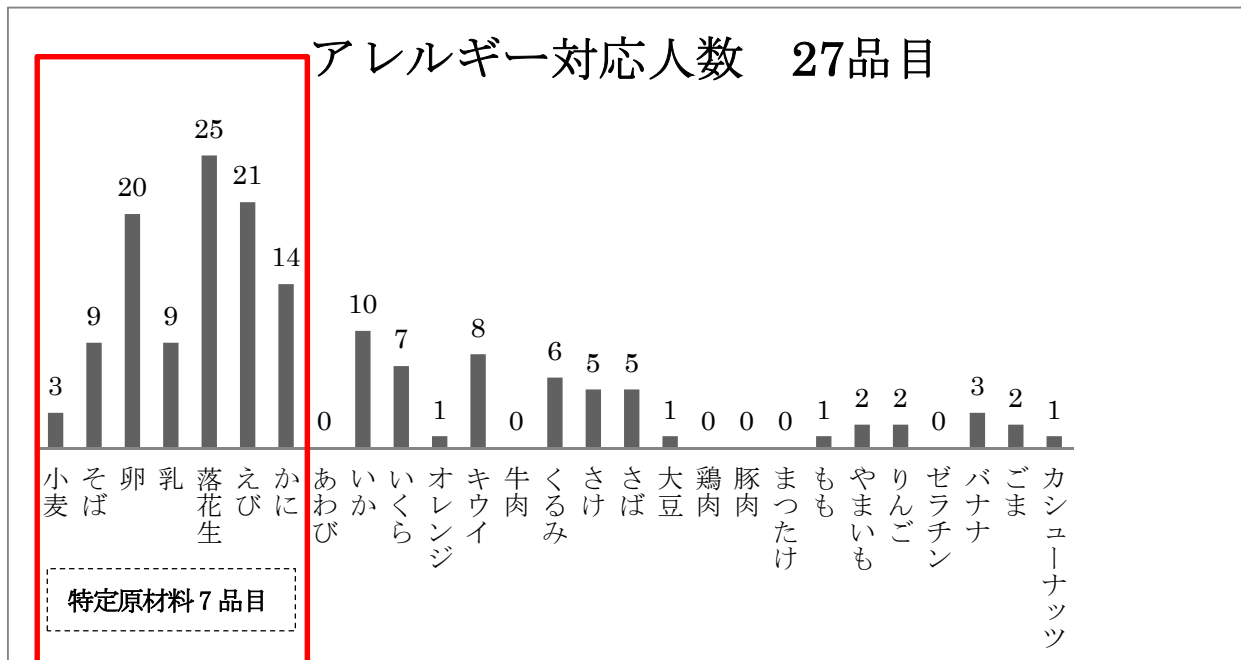
**レベル3対応とは、** 原因食品を除いた給食を提供すること。原因食品を除去することでおかずが1品欠ける場合が発生することや、除去の段階で原因食品が他の食品に混入する恐れがあり、安全を確保することが難しいため、**本市では実施しない**こととする。

**レベル4対応とは、** 原因食品を除き、それに代わる食材を補い給食を提供する。これにより、おかずが1品欠けることなく、また、原因食品を持ち込まないで調理するため、より安全な状況で調理できる。

### (4) 本市でアレルギーを有する児童生徒の現状

アレルギー有する児童生徒84人（その内、複数アレルギーを持つ者40人）

- ・落花生 25人
- ・えび 21人
- ・卵 20人
- ・かに 14人
- ・いか 10人
- ・乳 9人



令和元年度に実施した給食のアレルゲンの使用頻度

多い品目順	1学期		2学期		3学期		年間トータル	
	小	中	小	中	小	中	小	中
小麦	138	147	177	180	121	126	436	453
乳	42	51	56	59	40	45	138	155
卵	26	30	19	21	17	15	62	66
えび	3	5	4	4	3	3	10	12
いか	3	2	3	4	2	1	8	7
かに	1	1	0	0	1	1	2	2
そば	0	0	0	0	0	0	0	0
落花生	0	0	0	0	0	0	0	0

給食の使用頻度は、小麦が一番多く次に乳・卵・えびの順である。

このうち、そばと落花生については少量で重篤症状を引き起こす可能性が高いため、給食では使用しないこととする。

小麦については粉が舞うことや、調味料にも多く含まれることから対応が困難である。

この現状を踏まえ、君津市学校給食食物アレルギー対応検討委員会を3回開催した。

回数	日時	内容
第1回	令和元年7月30日	君津市学校給食食物アレルギー対応の現状と今後の取り組みについて
第2回	令和元年10月10日	食物アレルギー対応品目について 対応時期について
第3回	令和2年1月14日	レベル2（弁当対応の単品持参について）

**※ 食物アレルギー対応は命に関わるため安全を最優先に考え、アレルギーを有する児童生徒も安心して給食の時間を楽しめること、保護者の負担や学校現場・調理場での作業が複雑にならないことを念頭に置き検討を行った。**

### 【代替食が選ばれた理由】

除去食は原因食品を除いて提供する方法である。例えば卵アレルギーの場合、通常献立がかきたま汁の場合では、卵を除去することにより中華スープとして喫食できるが、主菜が卵そのものであるオムレツの場合は喫食できない。結果として一品欠けることになる。

これに対し代替食ではえび・卵・かに・乳を含まない給食を提供するためおかずが欠けることはない。

代替食を希望される児童生徒に安全かつ確実に提供するため、個人カードを付けた専用のランチボックスを使用することで安心して食べることができる。誤食誤配のリスクを低くすることができる。

また調理場内のアレルギー室にアレルゲンが持ち込まれることが無いため安全に提供できる。

### 【代替食の想定人数】

食物アレルギーを有する児童生徒84人のうち、  
純粋に4品目のアレルギーのみをみると

	小学校	中学校	計
えび・卵・かに・乳	21人	1人	22人

「えび、卵、かに、乳」の4品目を含まない代替食の提供により、アレルギーを有する児童生徒84人中、22人（84人中の26%）を救済できる。

なお、「落花生」と「そば」については、学校給食では使用しないため、該当する14人が実質的には救済できることとなり、その結果、36人（42%）の対応が可能となる。

君津市学校給食食物アレルギー対応検討委員会では、複数のアレルギーを有する児童生徒が多数いることや今後運用していく中で状況が変化することも考えられるため、今後も必要な検討を行っていくこととする。